

日 本 報

THE JAPANESE AMERICAN NEWS... PUBLISHED DAILY AT 630 ELLIS STREET... SAN FRANCISCO, CALIFORNIA

影 響

現内閣の爲め 有利ならんか 所望第二黨の 影響 現内閣の爲め有利ならんか...

本 社 東 京 特 電

三 日 午 前 十 時 舊 本 黨 系 幹 部 末 次 氏 へ 復 黨 勸 告...

末 次 氏 へ 復 黨 勸 告

勿 論 末 次 氏 承 知 せ ず 結 局 十 八 名 位 復 黨 する 模 様...

末 次 氏 語 録

是 々 非 々 々 意 見 が 一 致 不 だ ば 民 政 黨 提 携 す...

對 支 問 題 につ き

首 相 濱 口 氏 を 訪 ぶ 情 實 を 離 れ 協 力 を 乞 ぶ...

田 中 首 相 と

濱 口 總 裁 の 會 見 談 外 交 方 針 思 想 問 題 關 係...

濱 口 總 裁 の 會 見 談

外 交 方 針 思 想 問 題 關 係 朝 野 協 力 一 致 を 首 相 力 説...

たゞ 政 府 の 責 任 を

分 擔 減 ぜ ん と する 顔 觸 れ 内 定 せ ぬ 外 交 調 査 委 員...

外 交 調 査 委 員

伊 東 平 沼 後 藤 近 衛 濱 口 氏 は 參 加 せ ぬ...

西 久 保 弘 道 氏 入 院 す

山 荒 れ て 延 期 す 山 形 縣 下 の 大 火...

山 形 縣 下 の 大 火

鶴 岡 米 穀 取 引 所 倉 庫 内 の 米 五 萬 石 燒 失 す...

渡 米 中 な り し

慶 應 野 球 團 歸 朝 渡 米 テ ー ム 中 最 上 の 成 績...

大 統 領 選 舉 戦

フ ー ヴ ァ ー 乎 ス ミ ス 乎 當 選 可 能 性 の 科 學 的 考 察...

農 業 救 濟 問 題

關 稅 問 題 農 業 救 濟 問 題 關 稅 問 題...

英 佛 海 軍 協 定 と

米 當 局 者 の 觀 測 多 大 の 注 意 を 以 っ て 見 てる...

華 府 條 約

歐 洲 諸 國 が 不 戰 條 約 を 賞 讃 せ ぬ...

暗 殺 教 唆

オ プ レ ゴ ン 天 氣 豫 報 桑 港 及 附 近...

農 業 救 濟

新 案 を 研 究 ス ミ ス 知 事 農 業 州 は 民...

農 業 救 濟

新 案 を 研 究 ス ミ ス 知 事 農 業 州 は 民...

THE SUMITOMO BANK, LTD. 315 California St., San Francisco, Calif. 200 S. Pedro St., Los Angeles, Calif.

住友銀行 桑港支店 羅府支店 住友銀行 本店 大阪市北濱五丁目

株 の 御 用 命 藤 本 證 券 會 社 桑 港 支 店 1365 Russ Building SAN FRANCISCO, CALIF.

THE FUJIMOTO SECURITIES CO. 1365 Russ Building SAN FRANCISCO, CALIF. TEL. GARRFIELD 2728-2729

THE HOKKOMA SPECIE BANK, Ltd. LOS ANGELES BRANCH 180 N. Main St. Tel. Mutual 6144-6145

大 春 堂 THE TAISHUN DO 1423 KERN ST. FRESNO, CALIF. 歷史小説集 人生論叢書

AKI HOTEL 1651 Post St., S. F. Tel. West 1116 新築大擴張 安藝ホテル

ルテホ府羅 108 E. Second St., Tel. Metro 5181 二一ヨクホテル

日本御料理 小川ホテル 412 California St., San Francisco, Calif. 帝國ホテル

長商會 齊藤和英大辭典 現代商業美術全集 株式相場物語

ボートレースでは 日本が米國に負く

二艇身米國が抜いた ハーバード大学チーム オリムピック大会

（加）ボートレースの形勢... 米國第一着... 日本が米國に負く...

人見嬢

氣絶す

四百米突

御大典を叩へて

京都は活氣横溢

紀念事業額々計畫され 大典準備に上下狂奔中

（加）京都府長... 紀念事業額々計畫され...

改正米國移民法

施行細則の概要

再入國許可證所有者には不要

（加）米國移民法... 改正米國移民法...

東京市營電車

精一はいの

もう此以上の運轉不可能

代て乗合自動車續々發展

（加）東京市營電車... 精一はいの...

野球戦

五日桑港の白

人軍を迎へて

（加）野球戦... 五日桑港の白...

美しい女秘書を 伴れて歐米の旅

若尾鴻太郎氏昨日着米

（加）若尾鴻太郎氏... 美しい女秘書を伴れて...

渡米

浪花節一行

（加）渡米... 浪花節一行...

都代子はキツパリ

離縁してしまつた

（加）都代子... 離縁してしまつた...

公認報告會

在日に案内

（加）公認報告會... 在日に案内...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

有馬氏離府へ

有志は送別會

（加）有馬氏離府へ... 有志は送別會...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

春洋丸

昨朝着

（加）春洋丸... 昨朝着...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

佛婦人會

贈呈品協議

（加）佛婦人會... 贈呈品協議...

暑い筈の七月が 皮肉に涼しかった

毎日南風が吹いてたので
其月は北極光も現れた

友愛貯蓄組合 アイルトン九州人

アイルトン九州人会は、友愛貯蓄組合を組織し、八月十日に開会した。この組合は、アイルトン九州人会の有志者により組織されたもので、毎月十元を貯蓄し、年終に総額を返すというものである。開会式には、アイルトン九州人会の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。組合員は、アイルトン九州人会の有志者を中心に、約五十名に達した。

福岡海協總會

福岡海協總會は、八月十日に開会した。この總會は、福岡県内の海産物業者を中心に組織されたもので、毎月十元を貯蓄し、年終に総額を返すというものである。開会式には、福岡海協總會の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。總會員は、福岡県内の海産物業者を中心に、約五十名に達した。

郡共進會

郡共進會は、八月十日に開会した。この共進會は、郡内の有志者を中心に組織されたもので、毎月十元を貯蓄し、年終に総額を返すというものである。開会式には、郡共進會の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。共進會員は、郡内の有志者を中心に、約五十名に達した。

林間學校 は五日閉校

林間學校は、八月十日に五日閉校した。この閉校は、林間學校の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。閉校理由は、林間學校の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。閉校理由は、林間學校の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。

佛蘭主権 で送迎會

佛蘭主権で送迎會は、八月十日に開会した。この送迎會は、佛蘭主権の有志者を中心に組織されたもので、毎月十元を貯蓄し、年終に総額を返すというものである。開会式には、佛蘭主権の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。送迎會員は、佛蘭主権の有志者を中心に、約五十名に達した。

青年會造花 講習日變更

青年會造花講習日變更は、八月十日に開会した。この講習日は、青年會の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。講習理由は、青年會の役員が出席し、熱意をこめて歓迎した。

大野氏長女死亡

大野氏長女死亡は、八月十日に開会した。この死亡は、大野氏の長女が死亡した。死亡理由は、大野氏の長女が死亡した。

愛憎乱麻 下村悦夫作

愛憎乱麻は、下村悦夫作の長篇小説である。この小説は、愛憎の乱麻を描いたもので、八月十日に開会した。この小説は、下村悦夫作の長篇小説である。この小説は、愛憎の乱麻を描いたもので、八月十日に開会した。

荒谷團見送 一行來須

荒谷團見送一行來須は、八月十日に開会した。この見送は、荒谷團の一行が來須した。見送理由は、荒谷團の一行が來須した。

銀の管

銀の管は、八月十日に開会した。この管は、銀の管である。管理由は、銀の管である。

平澤恭子女史の 講演

平澤恭子女史の講演は、八月十日に開会した。この講演は、平澤恭子女史の講演である。講演理由は、平澤恭子女史の講演である。

朝日座の 紀念演劇

朝日座の紀念演劇は、八月十日に開会した。この演劇は、朝日座の紀念演劇である。演劇理由は、朝日座の紀念演劇である。

東原嬢獨唱會

東原嬢獨唱會は、八月十日に開会した。この獨唱會は、東原嬢の獨唱會である。獨唱會理由は、東原嬢の獨唱會である。

ユニバーサル ロケーション

ユニバーサルロケーションは、八月十日に開会した。このロケーションは、ユニバーサルのロケーションである。ロケーション理由は、ユニバーサルのロケーションである。

ヨキーの教會

ヨキーの教會は、八月十日に開会した。この教會は、ヨキーの教會である。教會理由は、ヨキーの教會である。

日本總領事館

日本總領事館は、八月十日に開会した。この總領事館は、日本總領事館である。總領事館理由は、日本總領事館である。

須市耕進會

須市耕進會は、八月十日に開会した。この耕進會は、須市耕進會である。耕進會理由は、須市耕進會である。

小村峯太郎

小村峯太郎は、八月十日に開会した。この峯太郎は、小村峯太郎である。峯太郎理由は、小村峯太郎である。

日米須市支社

日米須市支社は、八月十日に開会した。この支社は、日米須市支社である。支社理由は、日米須市支社である。

今岡究師

今岡究師は、八月十日に開会した。この究師は、今岡究師である。究師理由は、今岡究師である。

櫻府支社

櫻府支社は、八月十日に開会した。この支社は、櫻府支社である。支社理由は、櫻府支社である。

片岡貫一

片岡貫一は、八月十日に開会した。この貫一は、片岡貫一である。貫一理由は、片岡貫一である。

力石齒科醫院

力石齒科醫院は、八月十日に開会した。この齒科醫院は、力石齒科醫院である。齒科醫院理由は、力石齒科醫院である。

御禮廣告

御禮廣告は、八月十日に開会した。この廣告は、御禮廣告である。廣告理由は、御禮廣告である。

窪田信盛

窪田信盛は、八月十日に開会した。この信盛は、窪田信盛である。信盛理由は、窪田信盛である。

須田信盛

須田信盛は、八月十日に開会した。この信盛は、須田信盛である。信盛理由は、須田信盛である。

日本總領事館

日本總領事館は、八月十日に開会した。この總領事館は、日本總領事館である。總領事館理由は、日本總領事館である。

須市耕進會

須市耕進會は、八月十日に開会した。この耕進會は、須市耕進會である。耕進會理由は、須市耕進會である。

小村峯太郎

小村峯太郎は、八月十日に開会した。この峯太郎は、小村峯太郎である。峯太郎理由は、小村峯太郎である。

日米須市支社

日米須市支社は、八月十日に開会した。この支社は、日米須市支社である。支社理由は、日米須市支社である。

今岡究師

今岡究師は、八月十日に開会した。この究師は、今岡究師である。究師理由は、今岡究師である。

櫻府支社

櫻府支社は、八月十日に開会した。この支社は、櫻府支社である。支社理由は、櫻府支社である。

片岡貫一

片岡貫一は、八月十日に開会した。この貫一は、片岡貫一である。貫一理由は、片岡貫一である。

力石齒科醫院

力石齒科醫院は、八月十日に開会した。この齒科醫院は、力石齒科醫院である。齒科醫院理由は、力石齒科醫院である。

御禮廣告

御禮廣告は、八月十日に開会した。この廣告は、御禮廣告である。廣告理由は、御禮廣告である。

窪田信盛

窪田信盛は、八月十日に開会した。この信盛は、窪田信盛である。信盛理由は、窪田信盛である。

須田信盛

須田信盛は、八月十日に開会した。この信盛は、須田信盛である。信盛理由は、須田信盛である。

日本總領事館

日本總領事館は、八月十日に開会した。この總領事館は、日本總領事館である。總領事館理由は、日本總領事館である。

須市耕進會

須市耕進會は、八月十日に開会した。この耕進會は、須市耕進會である。耕進會理由は、須市耕進會である。

森本齒科醫院

森本齒科醫院は、八月十日に開会した。この齒科醫院は、森本齒科醫院である。齒科醫院理由は、森本齒科醫院である。

村上醫院

村上醫院は、八月十日に開会した。この醫院は、村上醫院である。醫院理由は、村上醫院である。

西本事務所

西本事務所は、八月十日に開会した。この事務所は、西本事務所である。事務所理由は、西本事務所である。

森本齒科醫院

森本齒科醫院は、八月十日に開会した。この齒科醫院は、森本齒科醫院である。齒科醫院理由は、森本齒科醫院である。

村上醫院

村上醫院は、八月十日に開会した。この醫院は、村上醫院である。醫院理由は、村上醫院である。

西本事務所

西本事務所は、八月十日に開会した。この事務所は、西本事務所である。事務所理由は、西本事務所である。

森本齒科醫院

森本齒科醫院は、八月十日に開会した。この齒科醫院は、森本齒科醫院である。齒科醫院理由は、森本齒科醫院である。

村上醫院

村上醫院は、八月十日に開会した。この醫院は、村上醫院である。醫院理由は、村上醫院である。



三協商會精米所
並に 賣買 周旋
土地 家屋 貸借
並に 賣買 周旋

西本事務所
NISHIMOTO CO.
401 St. Clair St., Stockton, Calif.
營業項目：生命、火災、自動車の
各保險。通譯並に労働口周旋。
抵當貸借媒介一切取扱

MATSUDAIRA SEES END OF WORLD WARS

Envoy Talks Before Pan-Pacific Club Of Tokyo

TOKYO, July 20.—(By Mail)—Mr. Tameo Matsudaira, who will be shortly appointed Ambassador to the Court of St. James, was the guest and speaker at the meeting of the Pan-Pacific Club, Friday noon at the Imperial hotel.

"The proposed treaty will put an end war as a national policy. We are happy to observe that virtually all the nations to which the treaty has been presented have signified their intention of endorsing it. There is every indication that the treaty will in due course become an accomplished fact, that the outlary of war, long the vision of the sages and the hope of the prophets will be lifted from the realm of imagination and transported to the sphere of reality."

"Such treaties may not make war entirely a thing of the past, but there is not the slightest doubt that they are a great stride towards the goal they have in view. In the attainment of the outlary of war an essential factor is the sympathetic understanding among the nations. Unless the nations understand each other, anti-war agreements, however well-meaning, may not be a sufficient guarantee of a permanent peace."

"Without real understanding true friendship is impossible and without true friendship among nations international peace, solid and lasting, cannot be established. It goes without saying that international understanding cannot be real unless it is based upon rational thinking and unbiased knowledge. Viewed in this light, any enterprise whose purpose is to promote international knowledge, scientific, political or social, should be fostered and encouraged."

"Pan-Pacific Union Appreciated. It is for this purpose, I take it, that the Pan-Pacific Union is organized. It has promoted many international conferences in order to facilitate the exchange of knowledge among the countries bordering the Pacific Ocean. This understanding under the auspices of the union is to be held at Honolulu. Year after year a conference of one sort or the other is organized by the union."

PACIFIC HOP TO BE TRIED AT ALL COST

GIFU, August 4.—(Special)—If it is impossible for the Japanese airplane built for the proposed trans-Pacific flight to make a non-stop flight to America, the flight should be attempted even if the plane makes a few stops before it gets to the other side," declared Lt. General Yamada, chairman of the flight committee of the Imperial Aviation Association, this afternoon upon finishing the test of the No. 1 plane at the Kagamiyama Flying field near here. He continued: "The directors of the Aviation Society wish to carry out the enterprise with the No. 2 plane, after its efficiency tests, if part of the tentative program is altered. It remains to be seen whether the No. 2 plane is superior to the No. 1. But if the No. 2 shows up good in its tests and proves airworthy and at least 10 percent better than the previously calculated airworthiness of the plane, that is 5,800 kilometers, the flight committee will not be slow in taking measures to carry out the trans-Pacific flight."

Boy, 6, Playing With Gun Kills His Infant Sister

FRESNO, Aug. 2.—(Special)—Takashii Futaba, six-year-old son of Kumaru Futaba, of Orange Cove, accidentally shot and killed his 3-year-old sister Toshiko Tuesday afternoon when a gun with which he was playing went off. The parents and two elder sons had left the house shortly after 4 o'clock, leaving the two youngsters behind, and were at work in a nearby field when they heard a shot. They hurried back and found Toshiko with a gunshot wound in her left breast and Takashii standing agape with a 12-gauge shotgun in his hands. The child died before reaching the hospital.

Empress Dowager Aids In Making Bridal Costume

The Empress Dowager is personally supervising the making of the elaborate garments which Miss Setsuko Matsudaira will wear during the ceremonies attendant upon her marriage to Prince Chichibu, heir presumptive to the Throne of Japan. The wedding costume itself will consist of kimono after kimono, each worn over the other, and will not differ from the wedding costumes of a thousand years and more ago. A number of foreign style gowns are included for luncheons and similar occasions.

JAPAN GIRL ACE FAINTS

Miss Hitomi Is Overcome After Strenuous Run

AMSTERDAM, August 2.—There probably will be no more 800 meter races for women in future Olympics after the sad spectacle occurring at the finish of today's race which went to Frau Lena Radke of Germany in time which knocked seven full seconds off the existing world record.

Florence MacDonald of Boston, who finished fifth, collapsed, falling across the pole on the grass unconscious. Officials had to work over the Boston girl for several minutes before she could regain strength enough to stand up, while several others were out even longer.

Kimie Hitomi, Japanese sprinter, discus thrower and middle distance runner, all in one, was the hardest hit. She was so exhausted after she had come within an inch of beating the German girl in a man-like finish, that she was completely out. A shudder run across the crowd of 25,000 at the sight of the women sprawled helplessly across the finish line and most of the Olympic officials immediately started again to strike off the race in future programs.

Harvard Crew Wins. SLOVEN, Holland, Aug. 3.—The Harvard four-oared crew with coxswain, representing the United States in the Olympic regatta here, got back into the running for the championship in its class by defeating the Japanese quartet today. Harvard's four won by 2 lengths. Its time was 7 minutes 43 seconds for the 2000 meter course.

As a result of its victory over the Japanese, the Harvard crew will participate in tonight's draw for tomorrow's races as if it had not lost to the German crew yesterday. Scullers and crews who lost both yesterday and today are definitely eliminated, but there were no Americans among them.

REHEARSES PLAY. New York, August 1.—(Special)—Miss Takane Nabu, a gifted song bird from Los Angeles who appeared three times last fall in Madam Butterfly with the Philadelphia Grand Opera is now rehearsing the part again in a suburb of New York. She is also to appear in a Chinese opera "L'Oracolo."

TOKYO GIRL STUDENTS HIT JOHN BARLEYCORN

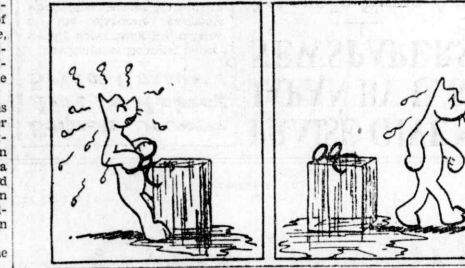
Not all Tokyo's younger generation are interested in pretty clothes, dancing and play.

Evidence of the oratorical and social interest taken by some "jogakusei" in the prohibition issue was vividly felt by those who listened to the eight fair young speakers who took part in the speaking contest on Prohibition at the Tokyo Ewa Jogakko, Azabu. The event, which is a novel undertaking so far as this country is concerned, was held under the auspices of the Army Prohibition for Minors, a body belonging to the Women's Society for the Reform of Customs and Manners.

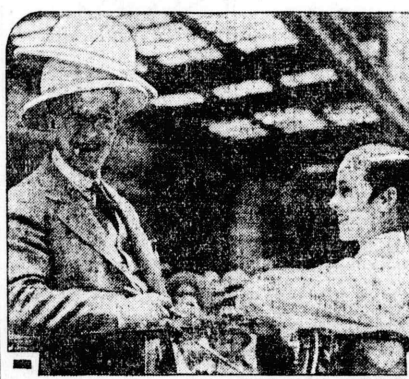
Miss Misako Fukui, who spoke on the "Necessity of Prohibition in Japan," was awarded the first prize by the committee of judges, composed of Mr. Koshio, secretary of the Temperance League, Madame Azuma Moriya and others.

The winner in her fiery speech, laid the cause of 80 percent of the present social evils to drinking, and went on to propound the need of prohibition to curb these social ills.

CAT TALES



Hitch-Hikers Aid Smith Campaign



Governor Al Smith received a gift of \$5 from Cornelia Mayberry and Amelia Eastman who hitch-hiked to New York from Houston, Tex., to contribute to the Democratic campaign fund. The governor is wearing the girls' helmets which he autographed for them.

K. NAKAMURA JAPAN WILL FIGHTS AUG. 9

Japanese Signed Up To Meet Mike McCourt

Kaneo Nakamura, undefeated Japanese featherweight, and Mike McCourt of Ireland have been signed by Promoter Hill of the Peninsula Athletic Club to battle in the six-round main event of his show at Pacific City arena next Thursday night.

Nakamura fought in the semi-windup at Pacific City a week ago and kayced L. Gifford in the second round. Many Japanese fans of the San Mateo district will probably witness the coming bout.

Mccourt is a protege of Jimmy McLernin, contender for the lightweight crown. The fight will be Nakamura's twentieth start.

months' subscription to her parents who aren't taking this paper.

Certainly you can, Florence. You can sell your subscription to anyone you please, and that the person isn't already taking this paper.

Ruth Kurokawa of Arroyo Grande tells us that she like the Junior Section very much. She says she only wishes the Section was as long as the day, then she would be able to read it and read it until the day was over.

We're glad to hear you like the Section, Ruth and we'll try to make it a little longer. We're also glad to learn that you liked the camera we sent you. Do send us a picture sometime, won't you, Ruth?

Please remember, all members of the club, write your letters plainly and sign your names so that we can read it easily. Otherwise we're likely to get your names wrong. Here's a letter from Lathrop, for instance, and while it's written in a nice hand we can't read the name that's signed to it. It looks like Marlon Koroldy, but we're not certain, so won't the member who wrote that letter send us another letter?

From Sadako Miyata, who lives in Brawley, comes this very interesting letter:

"I haven't written in for the last three weeks but have read all about the good time the boys and girls had at the Orpheum theater. My, but I sure did enjoy reading the letters the members send in about 'Our Gang' and seeing the famous actor, Sessue Hayakawa."

"I could picture what a grand time they had. Of course San Francisco is a far way off from Imperial Valley, one of the hottest places in California. Last week the thermometer went as high as 120 degrees."

"I am trying to let Miss N. N. K. join the Junior club. I have written to her and have told her what a good time our members are having."

"Now may I speak to Miss Mabel Araki of Petaluma through this letter. Listen Mabel, I wrote a letter to you and put your name on the envelope and stamped it and did everything to send it when the evening newspaper (The Japanese American News) came, and in the paper was a letter saying you had 17 girls writing to you. Gee! I should say 17 girls writing to you is a hard work so I won't write to you."

And now I want to speak to Miss Ruth. A. Tanaka. Listen, Ruth, would you mind writing to me. I am writing only to one person and I am kind of homesick yet. My address is Star route, box 28, Brawley, California."

Josephine Miura, a sister of Margaret Miura, sends in a nice letter. Josephine writes: "Today my sister and I went to get some pine cones. When we got to the place we were in such a hurry we fell and we laughed so hard we couldn't stop. We found some flowers and took them. We turned somersaults, too. We got so many pine cones that my father had to go and get them."

That must have been interesting, Josephine. We only wish we could have joined you and your sister.

THE WEATHER

Official weather forecast: Saturday: Fair and mild. Moderate to fresh westerly winds.

By Pusey

GIRL WRITES IMPRESSIONS OF FAR EAST

Local Born Lass Tells Of Life and Scenes In Japan

By HATSUYE TSUKUNO (Miss Hatsuye Tsukuno, the writer of these impressions is a young Japanese girl born in America and now a student at the Tokyo Ewa Jo-Gakko.) We were dead tired after a full day of walking and visiting in the many temples and shrines in Kyoto. Even the idea of going to Arashiyama after a such a day seemed tiresome. However when we got there I found such a lovely resting place that everything else faded away and I soon was quite refreshed.

The mountains dressed in various colors of green were very attractive. Every leaf, every tree of a different shade were so dense and velvety in appearance that one could not help wondering if fairies did not come out in the night and dance around their queen as in the stories of old. With the background of emeralds the rivers Hozu and Oi flowed beneath a few people were enjoying the landscape, their figures hardly discernible in the fading twilight. One lighted garden-lantern throwing out its dim light made the surroundings seem more wonderful. Here and there fishers were waiting for a bite from the calm waters.

Slowly we glided down the river passing in and out among the great rocks and we might have dashed into it if it had not been for our skillful boatman. Every fresh turn brought us to something new and exclamations and words of amazement were poured from every lip.

Unconsciously we were singing with hearts overflowing like the lilt of the birds that chirp and twitter from morn till night in the tree-tops. School, home, and everything else was gone that minute. I was not even conscious of breathing in such a place of beauty. Twilight was fast fading away and night was gradually wrapping up the world in darkness.

Time being limited we had to hurry home; saying farewell to the river calmly flowing on to eternity, and to the green mountains, and the great art of nature.

Day dawned the next morning with a dull and dreary sky and a world of rain. Our plans were changed and we went to Lake Biwa. With the banging of the orchestra and my imagination running far away, the boat left the land. If I were leaving for years how sad that would have been but none of that feeling came over me then. I remember having cried until my face was about as salty as the ocean beneath me when I left the land of my birth and sweet memories.

Water everywhere, not a piece of land in sight. Water that gives me such a yearning feeling for the days gone by. Standing on the deck and looking at the white foam the ocean beneath me when I left the land of my birth and sweet memories.

The Great Wind Fun. A gust of wind and rain often blew us a shower. Taking pictures, eating and talking with the other passengers telling them great stories of our trip, little of which was true, was the greatest fun.

We stopped at the famous places to visit the noted shrines, but most of the girls stayed aboard as it was so wet.

A small island of white rocks in the middle of a vast expanse of water was an uncommon sight. Its inhabitants were seagulls skipping across the water to save their lives, frightened by the noise of the whistle. The captain was purposely trying to let us have the fun of seeing the frightened birds fly away but to them it surely must have been a great scare.

In the evening we arrived at Otsu again and with lingering steps we left the ship, looking back at nearly every step to wave good-bye to the captain with whom we had become so well acquainted during our trip.

136 MILLIONS IN JAPAN SEE MOVIES EACH YEAR

TOKYO, Aug. 4.—(Special)—The popularity of movies and the strong hold which they have upon the Japanese people today, in particular the minors, are revealed by an investigation made by the Department of Education, the results of which have just been published.

According to the findings of this survey an aggregate number of approximately 136,129,000 men, women and children visited the movie houses during the year 1927, which is twice the number of the Japanese population. The majority of this number were boys and girls under 20.

There are a total of 2479 houses where movies are shown today, of which 1949 are maintained permanently throughout the year. Tokyo has the largest number of these permanent movie theatres, there being 191, with Osaka coming next

Westernization Of Japan Called Progress Stride

Evidence of industrial progress in Japan is made apparent through its westernized atmosphere in hotels and transportation facilities. M. Green, foreign correspondent of the Christian Science Monitor, told The Japanese American News upon his arrival here aboard the Shinyo Maru yesterday from Yokohama.

The English language is used extensively in Japan, enabling travelers to seek hotel accommodations comfortably, Green said. Although all Oriental countries show signs of westernization and industrial progress, Japan is outstanding.

6-DAY MEET CONCLUDES

Institute Parley Discusses Issues of Importance

SEATTLE, Wash., July 27.—For six days delegates from the four corners of the earth have gathered here to discuss world problems, chiefly from the viewpoint of seeing what can be done to preserve peace and prevent war among the nations. As they ended their last meeting tonight they voted the Northwest Session of the Institute of International Relations, which they have been attending, the most successful which the institute has yet held.

Although many conflicting and opposing opinions were presented by men from lands now involved in controversy, the spirit of conciliation in which the institute was founded was preserved throughout. Motosada Sumoto, special representative from Japan, sat at the front of the hall and seemed to enjoy as much as anyone present the humorous but nevertheless effective manner in which Dr. C. C. Wu, Chinese Nationalist leader, tore to pieces his arguments relative to Japan in Manchuria. Divergence of opinion seemed only to lend vigor to the earnestness of all concerned to seek amicable solutions for the various problems involved.

Wholly unofficial as it is, the institute was characterized by its officials as a body at which men and women interested in international affairs may meet, express their view and gain by the mutual exchange of ideas. Its mission is wholly educational. Not a single solution or action favoring a fixed policy was voted by the delegates. They return to their homes with an increased knowledge alone.

That the world is rapidly moving away from warfare and into an era in which peace will be supreme was pointed out at the closing session by Chester H. Rowell, journalist and president of the University of California, who declared that the machinery is already being set up for settling all disputes without war. He painted a dark picture of potential difficulties in Asia, and then drew attention to the methods for solving these problems under the League of Nations, the treaties growing out of the Washington Conference, and in other ways. The world, he said, is realizing that war has been outgrown, and has become too costly and too awful longer to be indulged in.

Nations, like people, will stop fighting each other and set up courts and policemen to settle their disputes, he said. Mr. Rowell pointed out that differences, even those which cannot be reconciled, need not cause conflict. Men may agree to disagree in peace and harmony.

The week of the session was filled with overflows of discussion among the delegates. Each morning, immediately after breakfast, a morning lecture was held jointly with the summer students at the University of Washington. This was followed by a series of 12 round table discussions, held in two sections of six each, with the delegates attending according to their tastes.

Daily luncheons were followed by presentation of distinguished guests of the Institute, and several conferences. Then came an afternoon conference at which some five or six speakers discussed a single topic, allowing time for questions and general discussion from the floor. Special dinners were staged by civic clubs of Seattle, such as the China Club, Japan Society, etc., where other speakers were heard. The last event of each day consisted of a formal evening session, at which two or three speakers appeared. This meeting was open to the public, while all other sessions were confined to delegates and guests.

Headquarters of the Institute were maintained at the Wesley club on the edge of the University campus. Round table groups met there, and in the Y.M.C.A. building just across the street. Morning lectures were on the campus, while afternoon conferences and evening lectures occupied University Temple, next to the Wesley club. Meals were taken at the Wilsonian Apartment hotel, which was headquarters for the Chancellor and as many delegates as it could hold.

Business men, bankers, commercial experts, government officials, lawyers and doctors were among the delegates. College and university presidents and many professors made up a sizable portion of the group. Some 75 trained nurses, holding an institute of their own in Seattle at the time, joined with the international gathering and attended many of its sessions. The county superintendents of schools of Washington, also meeting in the city, arranged their own schedule so that they had all afternoon and evening free to join the institute meetings.

The Institute of International Relations has had a brief but eventful history. It was pointed out by member as its first Northwest Session closed. It was founded by Dr. Rufus E. von KleinSmid, president of the University of Southern California, some three years ago.

K. TOMIZAWA TELLS OF Y'S WORK IN S.F.

Second Generation of Japanese Aided By Organization

TOKYO, July 15.—(By Mail)—The paramount mission of the Japanese Y.M.C.A. in San Francisco, is to make all efforts for eradicating racial prejudices of Americans toward Japanese in and around the city, stated Mr. Kiyoshi Tomizawa, general secretary of the Japanese "Y" organization, to the Osaka Matrichi's representative in an interview in the National Christian Council building in Tokyo.

Mr. Tomizawa arrived at Yokohama by the N.Y.K. Siberia Maru from San Francisco on July 9 and is now preparing to leave Tokyo for Kansai to make a study of the present conditions existing in the Y.M.C.A. at Nagoya, Kyoto, Osaka, Kobe and other leading cities in the western part of Japan. He has been in the United States for more than 25 years and this is his second visit of his country after the first, which was made 15 years ago. He expects to sail for the United States by the N.Y.K. liner Taiyo Maru, leaving Yokohama on August 16.

Care For Youth. The second important work of the Japanese "Y" at San Francisco is to give good physical, spiritual and mind training to the American children of Japanese parentage, so that they can associate with the best of the American communities with higher standard of living. Mr. Tomizawa went on. The S. F. Japanese "Y" has been giving various training to the second generation of the Japanese youth in the city, numbering 300 to 400 every year. The present Japanese population in San Francisco is reported to reach 1,000 out of which 4,300 are American born Japanese.

As to the anti-Japanese feeling entertained by Americans in San Francisco and other cities in California, he said it had been on the wane as the result of the completion of anti-Japanese legislation prohibiting Japanese from owning and leasing land in the long run, but it was still smouldering.

The San Francisco Japanese Y.M.C.A. was established a score of years ago, taking all American born Japanese children into its organization and carrying on the regular "Y" work.

Mr. Tomizawa said that his organization has been encouraging the Japanese youth to open up some business, by which they can get an independent living, telling them that their ability, quality, industry will in the long run be recognized by the Americans.

The Japanese born and educated in the United States are becoming agriculturists, opticians, dentists, florists, watch-repairers, shoe-makers, barbers and laundry men and making themselves successful, showing bright prospects for the second generation of the Yamato race, concluded the Japanese secretary.

presentation of distinguished guests of the Institute, and several conferences. Then came an afternoon conference at which some five or six speakers discussed a single topic, allowing time for questions and general discussion from the floor. Special dinners were staged by civic clubs of Seattle, such as the China Club, Japan Society, etc., where other speakers were heard. The last event of each day consisted of a formal evening session, at which two or three speakers appeared. This meeting was open to the public, while all other sessions were confined to delegates and guests.

Headquarters of the Institute were maintained at the Wesley club on the edge of the University campus. Round table groups met there, and in the Y.M.C.A. building just across the street. Morning lectures were on the campus, while afternoon conferences and evening lectures occupied University Temple, next to the Wesley club. Meals were taken at the Wilsonian Apartment hotel, which was headquarters for the Chancellor and as many delegates as it could hold.

Business men, bankers, commercial experts, government officials, lawyers and doctors were among the delegates. College and university presidents and many professors made up a sizable portion of the group. Some 75 trained nurses, holding an institute of their own in Seattle at the time, joined with the international gathering and attended many of its sessions. The county superintendents of schools of Washington, also meeting in the city, arranged their own schedule so that they had all afternoon and evening free to join the institute meetings.

The Institute of International Relations has had a brief but eventful history. It was pointed out by member as its first Northwest Session closed. It was founded by Dr. Rufus E. von KleinSmid, president of the University of Southern California, some three years ago.